



すいめん みずくさ ふゆ み
水面にしげっていた水草が、冬は見えないけど、どうしているの

ふゆ よう め つく とく 冬ごし用の芽を作って冬みんする

なつ なが 流れのゆるやかな川や、いけ すいめん 池の水面いっぱい、いろいろなみずくさ は ひろ 水草の葉が広がっていますが、ふゆ 冬になると、ほとんど見られません。みずくさ 水草は、いろいろなかたち 形で、冬ごししているのです。

ウキクサは、2ミリメートルぐらいの、ちい 小さなふゆ よう め えっとう が 越冬芽(越冬芽)が、みずそこ 水底にはりつたかたち 形で冬をすごします。すいめん 水温が上がると、芽はふくらみ、水面にうかできます。水の底のすいめん 水温は、きおん 気温の変化があまりつた 伝わらず、ふゆ 冬なら、そと 外のきおん 気温よりあた 暖かいです。タヌキモやクロモ、ヒルムシロなども、ウキクサとすこ 少しちがいますが、えっとうよう め つく 越冬用の芽を作って、その芽が、すいちゆう 水中で冬をすごします。

たね みずそこ 種になって、水底でねむる

ホテイアオイやヒシ、オニバスなどは、なつ はな さ 夏に花が咲き、できたたね 種がじゆくす した お くと下に落ち、たね みずそこ 種が水の底で冬をこします。ホテイアオイのたね 種は、はる 春になると芽を出し、みずそこ 水底の土にね 根をのばします。そして、は で 葉が出て、葉のえがふくらんでくると、えがうきぶくろのやくめ 役目をして、みずそこ 水底をはなれ、すいめん 水面にういてきます。このとき、みずそこ 水底の土にのびていたね 根はちぎれて、かれてしまいます。ホテイアオイは、みず ふか 水の深さがあるところでは、すいめん 水面にうき、ね すいちゆう 根は水中で、ひっくりかえ 返らないためのおも やくめ 重りのやくめ 役目や、みず きゆうしゅう 水を吸収するやくめ 役目をしています。

ち か ふゆ 地下けいで冬をこす

ハスやスイレン、コウホネ、ヨシ、マコモなどは、ふゆ 冬になると、は 葉やくきはかれて、なつ 夏のあいだ ようぶん 間に養分をためてある、ち か 地下けい(土の中)のちか なか びたくき(のびたくき)でふゆ 冬をこします。そして、はる 春になると、ち か 地下けいからめ だ 芽を出します。ハスのちか 地下けいが、レンコンです。(監修・矢野 亮)

